



二・二六事件は、どんな事件だったの



こうどうは せいねんしょうこう
皇道派の青年将校たちが、政党政治をたおして、
国のしくみを変えようと起こした反乱だよ。

1931年に満州事変が起こり、軍部、特に陸軍の政治的な力が強くなるにつれて、軍の内部では、派閥はばつの間の争いがはげしくなりました。五・一五事件（1932年）後は、「政党政治をたおし、天皇を中心とするしくみの国に変えよう」と考える皇道派と、「軍をしっかり統制し、軍が一体となって、政府に政策の変更を要求していこう」と考える統制派とうせいはいとの間の対立が、はげしくなりました。

皇道派と統制派の対立から、殺人事件が起こった

1934年8月、人事異動じんじいどうによって、陸軍の中央から皇道派を追い払おうとした永田鉄山軍務局長ながたてつざん（統制派の中心人物）が、陸軍省の建物の中で、皇道派の将校しょうこうに切り殺される事件が起こりました。犯人はんにんに対する軍法会議を通じて、皇道派の青年将校たちの考えが、ますます過激かげきになっていったようです。

皇道派が反乱を起こしたが、失敗に終わった

1936年2月26日の朝早く、皇道派の青年将校たちは、3連隊・約1400人の兵士を率いて、政府の中心人物の家をおそいました。岡田啓介首相は逃げて助かりましたが、高橋是清大蔵大臣たかはしこれきよ・斎藤実内大臣さいとうまことないだいじんらが殺されました。その後、東京の中心部を占拠し、自分たちの行動は正しい、と天皇に認めてくれるよう要求しました。しかし、天皇は認めてくれず、反乱軍としてあつかわれるようになったので、29日の朝に降伏こうぷくしました。

降伏した青年将校たちは、軍法会議の席で、軍の悪いところを暴露ばくろし、自分たちの行動の正しさを主張できる、と考えたようです。しかし、軍法会議は、「公開しない・一審いっしんだけ・弁護士なし」という暗黒裁判あんこくさいばんの形で行われ、青年将校13人、民間人6人が死刑しけいになるなど、重い刑けいばつを受けました。

